

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100422		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹2号館		
所在地	佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	令和 5年 10月 31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 11月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた環境の中、ご利用者、ご家族一人ひとりと向き合い、自立支援を念頭に置き、家庭的で暖かみのあるサービスを提供できるよう努めております。また、スタッフとご家族、ご利用者は顔馴染みになりやすく、いつでも気軽にご意見、ご要望を伝えていただきやすい環境の提供にも努めております。認知症の病気によって起こる様々な症状に対して専門性の知識を持ったスタッフが見守る中、少しでも自宅のような生活を送っていただけるよう関わらせていただいております。新型コロナ感染対策によって面会の制限はありますが、LINE配信等を通して、ご家族との関りを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みかん畑が広がり、自然豊かなところにあり、母体法人が運営する他の施設に併設している。玄関には、入居者と職員と一緒に作成した季節ごとの作品が飾られ、あたたかい雰囲気づくりがなされている。SNSを活用し、写真や動画を配信するなど、遠方に住む家族でも、入居者の暮らしぶりを共有することができる。入居者の意向を確認しながら、季節に応じた食事の提供やドライブ等を企画し、実施されている。隣にある「くつろ樹」での経験をつんだベテランの職員が配置されている。法人が中心となり、eラーニング等を活用した研修が行われ、職員が研修を受けやすい環境が整えられている。職員間のコミュニケーションもとれており、互いに支え合いながら、処遇モットーを念頭において、日々のケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、部会の開催時にシオンの園経営理念、処遇モットーを全員で唱和する事で意識付けし、実践に向け取り組んでいる。また、事業計画書にて基本方針を確認している。	毎月グループホーム内の会議で経営理念、処遇モットーの唱和を行うほかに、パソコンで視聴できる動画を発信し、いつでも職員が理念やモットーについての理解を深めることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染防止に努めながら今年度より秋祭りを再開。行事を通して地域との交流を図っている。	今年度より、秋祭りを再開し、コロナ禍で面会制限されていた地域住民と入居者の交流をすることができた。ボランティアや実習生の受入の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防対策のため、参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より2ヶ月に1回、開催。行事報告やご利用者の動向、様子を報告。ご家族や民生委員の意見を参考にしてサービスの向上に繋げている。	今年度より、2ヶ月にホームとは別の建物を活用し、会議を開催している。家族へは参加の呼びかけをし、意見や要望等は電話や面会時に確認している。会議開催後は、ホームを訪れる方が閲覧できるように、会議録を玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度より運営推進会議を再開。市町村担当者等と意見交流しサービスの向上に努めている。	市町担当者へは、必要に応じて連絡を取っている。ホームの空き状況の問い合わせがあったときには、管理者以外の職員でも対応できるような体制をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会、検討会を2ヶ月に1回部会内にて実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議の中で委員会を実施し、法人全体の研修会に参加したり、毎月チェックリストを活用してケアを振り返り、身体拘束に頼らないケアの取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会、検討会を2ヶ月に1回部会内にて実施。園内研修等にて振り返りを行いながら日々の業務にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されているご利用者がおられるため、その方より学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書、重要事項の説明を行い、退居時にも話し合いの場を設け、ご理解いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を再開。また、面会時等にご家族と面談を行っている。	運営推進会議の場や、面会時に入居者本人の状況を伝えながら、意見や要望の把握をに努めている。またSNSを活用し、随時、意見や相談等を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会等にて聞き取りした際の意見や提案を基に上申している。	勤務年数が長い職員が多く、意見や提案を言いやすい関係が築けている。ホーム内で検討できるものは会議で共有している。また、法人全体での対応が必要な内容は、法人に報告して運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び福利厚生にも力を入れていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき、研修への参加を促し知識、技術向上へと努めている。法人外への研修参加は難しい為、eラーニング等を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	9月にGH交流会へ1名、モニター参加。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで施設内の見学や面談を通じて本人様が安心して過ごして頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで施設内の見学や面談を通じて本人様が安心して過ごして頂けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネにて十分配慮されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳、下膳、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除等を家事と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス会議時等を通じ、より良い関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞いのはがき等を書いていただいている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため面会には制限があるが、LINE配信等を活用して関係が途切れることがないように努力している。	手紙などが届いたときには、本人に渡している。また、感染予防対策を行いながら家族以外の面会も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員で共有しおひとりお一人の個性を大切に、トラブルになる前に対応することを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中で取り組みを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス時や、日々の生活の中で本人様の希望や要望を聞き出すよう努力している。ご利用者主体での生活である事を念頭に入れ、取り組んでいる。	日々の生活の中やレクリエーションなどの活動を通じて、意向や要望を聞き出せるように努めている。また、言葉で表現することが難しい入居者は仕草や行動で把握し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用や日々の暮らしの記録の中での会話や思いを汲み取り把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部会の中でケース検討し、職員全体での把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、ご利用者やご家族にもニーズ、要望、意見を聞き取り、個々の思いに沿った計画書作りに努めている。	本人や家族に要望を聞いたり、また看護師に状態を確認し、職員間で意見を出しあって、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2023年5月よりケアカルテシステム活用。生活支援欄へ日々の生活様子を入力。記録やモニタリングを活用し、職員同士情報を共有しながら実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できることであれば、臨機応変に対応いたします。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はボランティア、地域の方のご協力もあり、秋祭りの開催ができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に希望があれば、協力医へ主治医を変更しているが、以前からの主治医を希望されるご利用者に関しては、ご家族を通じて密に情報交換を行うよう努めています。	主治医については、本人・家族の希望を確認し、定期受診の対応が難しい場合は、往診可能な医療機関を紹介している。定期的に通院している入居者は、家族と連携し、受診状況の把握をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師にて健康管理を行い、急な対応や相談等も訪問看護と連絡を取り合いながら対応しています。また、法人の医務看護課職員の協力も得られます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には定期的に状態を伺い、担当医、担当看護師、ご家族との情報共有に努め、早期退院に向けての話し合いの場を設けて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見を参考に家族と話し合い、重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、ご家族と話し合っ方針を共有し、協力医療機関と共に支援する体制づくりに努めています。	主治医の指示の下、本人・家族の意向を確認し、関係機関と終末期に向けた方針を共有している。緊急時には、訪問看護へ連絡することにより、職員の精神的な負担の軽減ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるようその場での実践に備える努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間消防計画を作成し昼間、夜間帯の定期的な消防訓練を実施しています。また、自然災害時のマニュアルも作成しております。	消防訓練以外にも、他の自然災害への訓練計画も立てており、実施されている。備蓄やカセットコンロなどの準備をし、定期的に点検管理を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳を重視した対応を心掛けています。	入居者本位の支援をおこえるよう、言葉遣いの勉強会を行い、意識付けをしている。排泄の声かけ等は、周囲に配慮して、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者主体の生活を心掛け、ご利用者の希望に沿った支援に努めるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の意見を尊重しながら対応しております。定期的に理髪サービスを使用しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付け等職員と一緒にしております。	昼・夜は外注であるが、入居者の希望に応じて、外注をキャンセルし、旬の食材を使った食事を提供している。法人本部の管理栄養士が、食事の写真や残量のチェックをし、管理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせた形態で準備しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える方へは言葉掛けを行い、介助が必要な方に関しては、ご本人の状態に合わせた対応を心掛けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら定時のトイレ案内や仕草を読み取りながら排泄ケアを行っております。アセスメントシート等で状態を把握し、個々の状態に合わせた支援に努めております。	排泄パターンを把握し、常時オムツ使用の入居者でも、一日1回はトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアカルテの情報を基に、排便確認を行い、必要に応じてごぼう茶や乳製品をとっていただきながら対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後に入浴を実施しています。その時のご利用者の状況に合わせた対応を心掛けております。	週2～3回、音楽をかけたり、入浴剤を使用し、ゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援している。身体状況に応じて、機械浴対応も可能である。着替えは、入居者と職員で一緒に準備を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアカルテの情報を基に、状態把握に努め、できるかぎり日中の活性化を図りながら安眠に繋がるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書は回覧できる状態。内服薬の変更時には連絡ノート等を活用し周知。ご家族や医師へも変化を報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で楽しみを見つけていただけるよう努めております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って外出支援できるよう心掛けております。	コロナ禍でできなかった外出については、入居者の意向を聞きながら、季節の花々の鑑賞などのドライブを再開している。個別に入居者の外出希望があれば、家族にも協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じてお金を所持し使えるよう対応しているが、現在、ご利用者個人で管理されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度電話を掛ける等対応しております。現在、お手紙のお返事を書かれる方はいらっしゃらない。手紙が届いた際には電話ができるよう環境を整えております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や天候に合わせてカーテン、窓の開け閉めの配慮を行っております。温度、湿度に関しては1日3回、チェックし快適に過ごしていただけるよう配慮しております。	温度湿度計を用いて、管理を行っている。季節の花々を入居者に活けてもらい、季節を感じてもらえるよう工夫をしている。呼び出し音の音量も昼夜調整するなど、音への配慮も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間や居室等、ご本人のお好きな場所で思い思いに過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には使い慣れたタンス等の持ち込みについて説明し、ご家族で準備していただいています。	馴染みのものは持ち込むことができ、職員と一緒に入居者や家族が居室づくりを行っている。居室に入る時は、入居者へ声かけをし、プライベート空間への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心掛け安全かつ自立した生活が送れるよう配慮しております。		